

留学の物語

‘サピエンツァ’ ローマ大学

マッシミ・イザベラ

今日は、私の最後の発表です。言葉でうまく伝えられないかもしれませんが、日本での体験はほろ苦いものでした。この大変な状況でも、日本に来られて、素晴らしいですが、留学が一年間から6ヶ月になってしまったからです。それで、あっという間に、お茶大の留学生としての時間が終わりました。

日本に来てから、4ヶ月経ちました。長い間ではなくて、短ければ短いほど時間を楽しめると言われています。同意しなかった場合がたくさんありましたが、今回そう思います。個人的に言えば、日本での経験が多くないかもしれませんが、行ってみた場所や知り合った人や学んだことは、ずっと一生残ります。なぜかという、様々な「初めて」があって、特別だからです。



初めて、お寺や神社をいろいろ巡ったり、お辞儀の仕方を教えてくれたり、お守りも買ったりすることができました。初めて、旅館に泊まって温泉や露天風呂に入るだけでなく、ゆかたレンタルをして畳の部屋で楽しみました。初めて、日本人の友達と先生方に会える

機会もありました。最初の授業がオンラインばかりになっていたし、みんなが自分の国にいたので、誰にも会えないと思ってしまいました。幸いにも、逆でした。みんなそろった時、一緒に遊んだり、写真を撮ったりすることができるようになりました。

ただ、大学の人以外との人間関係はちょっとつらかったです。コロナの状況が悪化するとともに、多くの人が出かけなくなったし、外国人を避けるようにしたため、

少し寂しくなっていました。たぶんもっと気が合った人々は、ほかの留学生です。同じ状態になっていたのも、親しくなって一緒にいろいろな経験をしました。

今、振り返ってみると、どんなに短くても、いくら少なくても、日本で過ごした時間が私を変えてくれたと気づきました。日本に来る前に、自主的な行動をしていたので、誰からもアドバイスを聞かず、自分から進んでいた場合が多くありました。一方、来日してから、文化の違いにぶつかって、変えなれないといけなそう思いました。簡単ではなくて、まだ道のりが長いですが、



これからもカルチャーショックを乗り越えられなさそうです。なぜならば、みんなは自国で育てられ、自分の考え方や態度やマナーなどによって異なる文化を判断するからです。そして、悪い判断なら、その文化に同化しないため、もっとつらい気持ちが出てくるかもしれません。

例えば、イタリアでは、多くの人がまず自分のことを気にしたりアパートでも道でもうるさかったり、他人を考慮しなかったりすることが普通です。逆に、日本のどこでも、みんな思いやりがあるし、低い声で話すし、マナーが良いです。確かに、このような習慣のことで、「正しい」「正しくない」という概念がありませんが、慣れてきた考え方は影響を与えます。さらに、安全地帯にとどまらず、虚心に別の文化に溶け込める努力すると、何か変わる期待が出るはずですが、そして、その期待どおりじゃなかったら、落ち込んでいくかもしれません。

そこで、ここまでお世話になった人に感謝の気持ちを伝えたいと思います。まず、指導教師と先生方のおかげで、文化の違いは少し理解しやすくなりました。そして、半年間だけでも、オンラインでも、先生方と築けた関係はものすごく貴重だと思っています。実際には、少ししか会えなかったのに、結構、すごくいい時間を過ごさせてくださって、私にとって家族みたいな存在になりました。家族のように、困難があれば、相談したり、アドバイスを聞いて支えていただけたので、全部乗り越えられました。

次に、寮母さんが親身に相談に乗ってくれて、本当に感謝しています。

最後に、小西さんに恩があります。日本に来られたのは、小西さんのおかげでした。感謝の言葉が足りなくても、大変お世話になっておりました。希望を捨てそうになった私は、一生感謝します。

このように、お茶大での旅は、終わりに近づいていますが、本当の終わりではありません。

去年、紅葉の季節が始まる東京に迎えてもらったから、桜の満開を見て、新たな希望で自分の道を続きます。

